



● 本日の例会 2019 年 7 月 26 日 通算 1534 回 本年度 第 4 回

卓話 : 「勝利の哲学とチームづくり ー指導者に必要な人間力ー」

桐蔭横浜大学 硬式野球部監督 齋藤 博久 氏

● 第 1533 回 例会報告 / 2019 年 7 月 19 日

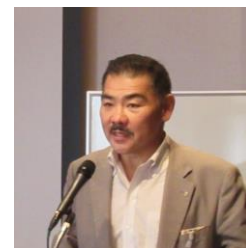
卓話 : メンタルサポート協会理事長

岡田 沙織 氏

出席報告 : 会員 48 名 / 出席 37 名 欠席 12 名

ゲスト : 下村慶一、岡田沙織、武藤祐果、
望月明美

ビジター : 太田嘉正(東京中央 RC)、神山芳子(下館 RC)、小田浩(東京山王 RC)、井上勝重(東京山王 RC)、新谷江里子(東京山王 RC)、清原元輔(東京麻布 RC)、辻穂高(東京麻布 RC)、中村玲子(東京麻布 RC)
計 12 名 (順不同・敬称略)



ご紹介者 : 河邊会員



7月 19日 12件 28,000円 累計91,000円
多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

東京麻布 RC 会長 辻穂高・東京麻布 RC 幹事 清原元輔/土屋東一/熊本誠司/藤井宏章/橋本年男/小林博茂/西澤民夫/石井謙次/河邊幸夫/コンシニ/鶴飼光美/佐藤仁

幹事 :

7/26(金)に暑気払いを行います。肉塊 UNO 溜池山王店で開催いたします。現在 37,8 名ご参加いただけるということです。まだ席に余裕がありますので、ご家族、ご友人お誘いください。よろしくお申し込み申し上げます。

	日付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
今 後 の 予 定	8 月 2 日	12:30 13:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : 「伝えた！」が「伝わった！」 に変わる 3 つの法則 プレゼンテーション 奥秋 和歌子 氏
	8 月 9 日	12:30 13:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : 国連 UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 協会 顧問 檜森 隆伸 氏
	8 月 16 日		休 会		
	8 月 23 日	12:30 13:30	B 1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : イニシエーションスピーチ 中森 真紀子氏
	8 月 30 日	12:30 13:30	37F アリエス ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話 : 出版プロデューサー 松尾 昭仁 氏
	9 月 3 日	18:30	MIXX & BAR (36F) ANA インターコンチネンタルホテル東京	火曜会	テーマ : 未定

新年度 マーク・ダニエル・マローニー RI 会長メッセージ



私は大の旅行好きです。ある場所から別の場所へと移動するという、そのありふれた過程が好きなのです。とはいえ、昨年、妻のゲイと私は、どんなに陽気な旅人でもお気楽ではられないような経験をしました。前の晩には知りもしなかったホテルで目覚め、もう旅行は終わっているはずのその日、立ち寄る予定はなかった空港で6時間も待たないといけないという羽目に遭いました。まったくついていない日でした。

ニューヨークシティの JFK 国際空港で待っている間、ゲイとターミナルをぶらついて人間観察をしました。あらゆるゲート、あらゆる目的地、あらゆるフライト待ちの人びとを眺めながら、ターミナルの端から端まで行ったり来たりしました。

どのゲートにも、人びとの島がありました。コンコースの中央を行けばそこはニューヨークで、同じ川の中をみんなと一緒に進んでいきます。しかし、わきにそれてゲートに入ると、川を離れて島にたどりつきます。そこはすでにデリーやパリ、テルアビブなのです。

空港散策に出たとき、私は内心、「こんなにさまざまな人が、さまざまな国から、ひとつの場所に集まっているなんて。まるでロータリーみたいだ」と思っていました。しかし、ゲートをいくつも通り過ぎていくうちに、あることに気づきました。これはロータリーとはまったく違います。この川では、誰もがどこかの島に向かっていて、その島は島でありつづける。台北に向かう人びと同士は話をするかもしれませんが、カイロやラゴスに向かう人びとに話しかけはしないのです。

それに比べて、ロータリーはどうでしょうか。ロータリーは私たちが違いを超えて、深く、有意義な形でつながり合うことを可能にしてくれます。ロータリーに入らなければ出会えなかったような人びと、思ってもみなかったほど自分に似ている人びとに引き合わせてくれます。地域社会や仕事上の機会、私たちの助けを必要としている人びとに引き合わせてくれます。

そういった出会いこそ、ロータリー活動を JFK 空港の散策とは大きく異なるものに行っているのです。ロータリーでは、誰ひとりとして島に孤立したりしません。誰であっても、どこ出身であっても、どの言語を話すのでも、どんな伝統を守っているのでも、みんなと一緒にロータリーに参加しています。わたしたちは互いにつながり合っています。地域社会の一員であり、また、クラブ会員だけでなく私たちみんなが属する、地球全体のコミュニティの一員なのです。

このつながりこそ、ロータリー体験の核となるものです。これこそ、私たちがロータリーへと導いたものなのです。これこそ、私たちがロータリー会員であり続ける理由です。ロータリーが世界をつなぐ中、ロータリアンの仲間と一緒に、この旅路に出ませんか。

2019-20 RI President Mark Daniel Maloney
(<https://rotary.org/ja> より)

新年度 RI2750 地区 浅田 豊久ガバナー メッセージ



5000 人の仲間をつなぐロータリー

国際ロータリー (RI) 会長 マーク マローニーさん (米国 アラバマ州出身) の RI テーマとロゴマークが、サンディエゴで開催された「国際協議会」で発表されました。「ロータリーは世界をつなぐ」です。

またこの資料の表紙を飾るロゴマークの意とするところは真ん中の青い円が地球、周囲の人間型模様は人類を表しお互い手を差し伸べて繋がっている、という状況を表現している、との解説でした。

この RI のテーマをベースに第 2750 地区の 2019 年-20 年度のテーマは「5000 人の仲間をつなぐロータリー」と致します。

家族と生活を営み、社員と職業を盛り立て、近隣の人々と密接なつながりを持つ私たち。縁あって<ロータリー>の目的に共鳴し地域のために日々助け合う事に改めて心を向けている、その集団を形づくる人たちの総数はほぼ 5,000 人にもものぼります。

各クラブの会長がリーダーシップを発揮して第 2750 地区という長い歴史と美しい伝統と目をみはる行動力で作ってあげてきた地域の人たちとの共同作業。このパワーが集結した時の凄さを改めて私たちは認識せねばなりません。具体的には地区内 99 のクラブが実行している地域社会との共同作業=社会奉仕=を認識しましょう。次のステップはその事業を継続するための手段とし女性会員、若い会員の力を借りて実行する意識を育成し体験してもらおう事です。

この精神を具体化することは結果として会員増強と退会防止に繋がることと理解せねばなりません。

地区内各クラブの会長は我がクラブの範疇を超えて全てのクラブを連携するそのリーダーとしての自覚を保持するという感覚を意識して頂きたいのです。

それを受け止めて地区は地区内クラブへの支援体制を再点検し整え直してさらにパワーを植え付ける作業に取り掛かります。例えば職業奉仕の何たるかを理解し行動するクラブと協働作戦を実行したいと思っております。

具体的にはクラブへの情報発信を更に密に、逆の情報発信も真摯に受け止める、最終ステップはその情報の共有と行動の共有に持って行く事です。

時計は止まってくれませんが、今こそ私たち第 2750 地区は手を取り合って前進し行動し地域から信頼される組織、団体になろうではありませんか。

一緒に手をつないで頑張りましょう！

(ガバナー月信より)